

令和7年度 調布市立第七中学校 指導計画・評価計画表 【1年生 数学科】

観点 ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

指導単元	観点	単元の評価基準	具体的評価基準（おおむね満足 B）	評価方法・場面	弱点克服
第0章 整数の性質	①	・自然数、素数、素因数分解の意味を理解している。 ・素因数分解の一意性を理解し、自然数を素因数分解することができる。	・素因数分解の意味を理解している。 ・素因数分解の一意性や累乗の意味を理解し、自然数を素因数分解することができる。 ・自然数を素因数分解した式から、もとの数の約数や、もとの数がどんな数の倍数であるかを求めることができる。	・授業観察 ・ノート ・定期考査	・個別指導 ・机間指導
	②	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだし表現することができる。	・九九表の数の並びから、いろいろなきまりを見だし、説明することができる。 ・九九表を縦2マス、横2マスの正方形で囲むと、斜めの数どうしの積が等しくなる理由を考え、説明することができる。 ・九九表の数を素因数分解した結果から、九九表の数は、素数とそれらの積と1だけで作られていることを見だし、説明することができる。	・授業観察 ・ノート ・レポート課題 ・定期考査	・指導助言 ・教材の開発 ・ICT活用
	③	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。	・ノート ・振り返りシート	
第1章 正の数と負の数	①	・正負の数の必要性和具体的な場面と結び付けて理解している。 ・正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 ・具体的な場面で負の数を用いて表したり処理したりすることができる。	・正の数・負の数を用いて、身の回りのいろいろな事象を表すことができる。 ・正の数・負の数を用いて反対の方向や性質を表すことができる。 ・正の数・負の数を数直線上に表したり、大小関係を不等号を用いて表したりすることができる。 ・正の数・負の数の四則計算ができる。 ・加法と減法の混じった式を、正の項や負の項の和として表すことができる。  ・正の数・負の数の意味を、これまでの経験や日常生活の具体的な場面などに結び付けて理解している。 ・符号（+、-）や自然数、整数の意味を理解してい	・授業観察 ・ノート ・ワーク ・振り返りシート ・レポート課題 ・小レポート ・定期考査	・個別指導 ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善（個別観察と支援） ・教材の開発 ・ICT活用

			<ul style="list-style-type: none"> <li>る。</li> <li>・正の数・負の数の大小関係、不等号や絶対値の意味を理解している。</li> <li>・正の数・負の数についても、加法、乗法に関して交換、結合や分配法則が成り立つことを理解している。</li> <li>・数を正の数・負の数にまで拡張することによって、加法と減法を統一的にみることができていることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> </ul>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正負の数の四則計算の方法を子呪殺し表現することができる。</li> <li>・数の集合と四則計算の可能性について捉えなおすことができる。</li> <li>・正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数を正の数・負の数にまで拡張することで、最高気温の前日との差などを、正の数・負の数を用いて考えることができる。</li> <li>・反対の方向や性質を表す場面で、正の数・負の数を用いて考えることができる。</li> <li>・これまでの計算をもとにして、正の数・負の数の計算の方法を考えることができる。</li> <li>・数を正の数・負の数にまで拡張することで、計算の可能性が広がることに気づき、加法と減法を統一的にみることができている。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正負の数のよさに気づき粘り強く考えようとしている。</li> <li>・正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>・正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正の数と負の数に関心をもち、その必要性和意味を考えたり、正の数と負の数を用いて、身の回りの様々な事象を表したりしようとしている。</li> <li>・正の数と負の数の四則計算に関心をもち、その意味や計算の仕方を考えたり、計算したりしようとしている。</li> <li>・正の数と負の数を用いることに関心をもち、様々な事象における変化や状況を表したり処理したりしようとしている。</li> </ul>		
第2章 文字の式	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いることの必要性和意味を理解している。</li> <li>・文字を用いた式における積や商の表し方を知っている。</li> <li>・文字を用いた式の文字に数を代入して、その式の値を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて式に表したり、式の意味をよみとったりすることができる。</li> <li>・文字を用いた乗法、除法の式を、約束に従って適切に表すことや、簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な1次式の計算をすることができる。</li> <li>・数量の関係や法則などを、文字を用いた式に表すことができることを理解している。</li> <li>・数量の関係や法則などを、文字を用いた式を用いて表したり、読み取ったりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字に値を代入して、式の値を求めることができる。</li> <li>・文字を用いることで数量やその関係・法則を一般的に表現したり、式からその意味をよみとったりすることができることを理解している。</li> <li>・文字を用いた式における乗法、除法の表し方や、一次式の加法、減法における項のまとめ方を理解している。</li> <li>・式の値の意味を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>・教材の開発</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な場面と関連付けて、1次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。</li> <li>・文字を用いた式を活用して、具体的な事象を考察し表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて表現し、一般的に考えることができる。</li> <li>・<math>a+b</math>、<math>ab</math> など、文字を用いた式は、それぞれ加法、乗法を表しているとともにそれらの結果も表しているとみることができる。</li> <li>・文字に値を代入することで、文字を用いた式を具体的な事象に適用して考えることができる。</li> <li>・文字を用いた式の計算も数の計算と同じようにみて計算の方法を考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いることよさに気づき粘り強く考えようとしている。</li> <li>・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>・文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字を用いることに興味をもち、その必要性和意味を考えたり、文字を用いて式に表したり、式の意味を読み取ったりしようとしている。</li> <li>・文字を用いた式の計算に関心をもち、その計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。</li> <li>・文字を用いた式を活用することに関心をもち、数量の関係や法則などを表したり、その意味を読み取ったり、式の値を求めたりしようとしている。</li> </ul>		
第3章 方程式	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方程式の必要性和意味を理解している。</li> <li>・方程式の解や等式の性質、移項の意味を理解している。</li> <li>・等式の性質の意味を理解し、等式の性質を用いて方程式を解くことができる。</li> <li>・移項の考えを用いて方程式を解くことができる。</li> <li>・簡単な1次方程式、比例式を解くことができる。</li> <li>・事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一元一次方程式をつくることができる。</li> <li>・一元一次方程式に値を代入して、その数が解であるかどうか確かめることができる。</li> <li>・簡単な一元一次方程式を解くことができる。</li> <li>・一元一次方程式を解くとき、どの等式の性質が使われているのか説明することができる。</li> <li>・一元一次方程式をつくったり、その解を求めたりするとともに、その手順や解の適否を説明することが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次方程式を用いて具体的な場面の問題解決を行うときの、解の吟味の意味と必要性を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる。</li> <li>・一元一次方程式及びその中の文字や解の意味について理解している。</li> <li>・等式の性質と移項の関係を理解している。</li> <li>・一元一次方程式の解き方を理解している。</li> <li>・一元一次方程式を利用して問題を解決する手順を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>援)</li> <li>・教材の開発</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等式の性質をもとにして、1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。</li> <li>・方程式において、移項できる理由を等式の性質をもとにして考察し表現することができる。</li> <li>・具体的な場面の問題において、1次方程式を活用し、問題を解決することができる。</li> <li>・具体的な場面の問題において、解を吟味して解答としてよいかどうかを判断することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象には、文字を用いると簡単な等式に表せるものがあることに気づき、文字に当てはまる数について考えることができる。</li> <li>・等式の性質と移項の関係について考えることができる。</li> <li>・等式の性質をもとに一元一次方程式の解き方を考えることができる。</li> <li>・具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、一元一次方程式をつくり、その解を求めるとともに、解や解決の方法が適切であったかどうか振り返って考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方程式のよさに気づき粘り強く考えようとしている。</li> <li>・正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして、方程式を効率的に解く方法を検討している。</li> <li>・方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>・方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方程式とその解に関心を持ち、その必要性と意味を考えたり、様々な数を代入するなどして自分なりの方法で解を求めたりしようとしている。</li> <li>・等式の性質と移項及びその関係に関心を持ち、一元一次方程式を解こうとしている。</li> <li>・一元一次方程式を活用することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。</li> </ul>		
第4章 変化と対応	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数関係、座標の意味を理解している。</li> <li>・比例、反比例について理解している。</li> <li>・比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例、反比例の関係を式で表すことができる。</li> <li>・文字を変数として扱うことができる。</li> <li>・比例、反比例の関係を表、式、グラフなどで表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。</li> <li>・比例、反比例の表、式、グラフを用いて具体的な事象を表現したり、処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・変数と変域の意味を理解している。</li> <li>・事象の中には比例、反比例を用いてとらえられるものがあることを知り、比例、反比例の意味を理解している。</li> <li>・変化や対応の様子、グラフの形、<math>y=ax</math> や <math>y=a/x</math> の <math>a</math> の意味など、比例、反比例の特徴を理解している。</li> <li>・座標を用いて、平面上の点が一意的に表されることを理解している。</li> <li>・比例、反比例の見方や考え方を、どのような場面でどのように用いるかを理解している。</li> <li>・比例、反比例の見方や考え方をを用いると、事象を考察したり、予測したりすることができることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> <li>・単元テスト</li> </ul>	<p>善（個別観察と支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の開発</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。</li> <li>・比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象の中にある二つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、比例、反比例の関係になるものがあることに気付く。</li> <li>・比例、反比例の特徴を、表、式、グラフなどを用いて考えることができる。</li> <li>・具体的な事象を、比例、反比例の見方や考え方を生かして変域を意識しながら調べ、その結果が適切であるかどうか振り返って考えることができる。</li> </ul>		
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数関係や比例、反比例のよさに気づいて粘り強く考えようとしている。</li> <li>・比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>・比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数関係に関心を持ち、その関係を表やグラフなどで表したり、変化や対応の様子をとらえたりしようとしている。</li> <li>・比例、反比例の関係に関心を持ち、具体的な事象の中から比例、反比例の関係としてとらえられる二つの数量を見いだしたり、その関係を式で表したりしようとしている。</li> <li>・比例、反比例の特徴に関心を持ち、表、式、グラフなどを用いて考えようとしている。</li> <li>・比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。</li> </ul>		

第5章 平面図形	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行移動、対称移動及び回転移動について理解している。</li> <li>平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。</li> <li>角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解している。</li> <li>おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形に関する記号の使い方がわかる。</li> <li>基本的な作図方法がわかる。</li> <li>「作図」の方法で、角の二等分線、円の接線などを作図することができる。</li> <li>「作図」の手順を説明することができる。</li> <li>円の半径と接線との関係、弧や弦の意味を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ノート</li> <li>ワーク</li> <li>振り返りシート</li> <li>レポート課題</li> <li>定期考査</li> <li>単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導</li> <li>机間指導</li> <li>指導助言</li> <li>指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>教材の開発</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の移動に着目し、2つの合同な図形の関係について考察し表現することができる。</li> <li>線対称な図形の性質をもとにして、基本的な作図の方法を考察し表現することができる。</li> <li>図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、操作や実験を通して、基本的な平面図形を対称性の観点から考えたり、とらえ直したりすることができる。</li> <li>角の二等分線などの「作図」の方法を、対称性に着目して考えることができる。</li> <li>「作図」した図形が条件に適するものであるか否かを振り返って考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形の性質や関係を捉えることよき気づき粘り強く考えようとしている。</li> <li>平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な作図に関心をもち、その方法を考えたり、問題の解決に生かしたりしようとしている。</li> <li>平行移動、対称移動及び回転移動に関心をもち、図形を移動したり、移動の前後の二つの図形の間を関係を考えてみようとしている。</li> </ul>		
第6章 空間図形	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間における直線や平面の位置関係を理解している。</li> <li>立体図形の展開図や投影図について理解している。</li> <li>基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体模型などを用いて、空間における直線や平面の位置関係には、どんな場合があるか説明することができる。</li> <li>直線や平面図形の運動による柱体・錐体などの空間図形の構成の仕方を、言葉や図などを用いて説明することができる。</li> <li>見取図や展開図を用いて空間図形を表したり、見取図や展開図から空間図形やその性質をよみとったりすることができる。</li> <li>おうぎ形の弧の長さや面積や柱体・錐体の表面積と体積を求めたり、その求め方を説明したりすることができる。</li> <li>空間における直線や平面の位置関係を分類すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ノート</li> <li>ワーク</li> <li>振り返りシート</li> <li>レポート課題</li> <li>定期考査</li> <li>単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導</li> <li>机間指導</li> <li>指導助言</li> <li>指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>教材の開発</li> </ul>

			<p>ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柱体・錐体などの空間図形は、直線や平面図形の運動によって、立体が構成されることを理解している。</li> <li>・回転体の意味を理解している。</li> <li>・見取図と展開図の意味や役割を理解している。</li> <li>・円周率を記号「<math>\pi</math>」と表すことの意味を理解している。</li> <li>・柱体・錐体の表面積（底面積、側面積）と体積の意味やその求め方を理解している。</li> </ul>		
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。</li> <li>・空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる。</li> <li>・立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間における直線と直線、直線と平面、平面と平面の位置関係について、見通しをもち、観察、操作や実験を通して、考えることができる。</li> <li>・柱体・錐体などの空間図形が直線や平面図形の運動によって構成されているとみることができる。</li> <li>・空間図形の性質を見取図や展開図を目的に応じて用いて調べ、空間図形を平面図形に帰着させて考えることができる。</li> <li>・おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を、中心角の大きさとの関係に注目して考えることができる。</li> <li>・観察、操作や実験を通して、柱体・錐体の表面積の求め方を考えることができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間図形の性質や関係を捉えることよさに気づいて粘り強く考えようとしている。</li> <li>・空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間における直線や平面に関心をもち、それらの位置関係について考えようとしている。</li> <li>・空間図形の構成に関心をもち、直線や平面図形の運動によって、どの空間図形が構成されるかを考えようとしている。</li> <li>・見取図、展開図、投影図に関心をもち、それらを用いて空間図形を表したり、読み取ったりしようとしている。</li> <li>・扇形の弧の長さや面積や、柱体、錐体、球の表面積と体積に関心をもち、その求め方を考えようとしている。</li> </ul>		

第7章 データの活用	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解している。</li> <li>・累積度数、累積相対度数の必要性と意味を理解している。</li> <li>・代表値や範囲の必要性と意味を理解している。</li> <li>・コンピューターなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。</li> <li>・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料を整理することができる。</li> <li>・問題を解決するため、代表値などを求めることができる。</li> <li>・課題を解決するために、ヒストグラムや代表値を用いて、整理することができる。</li> <li>・度数分布表やヒストグラム、相対度数などの必要性と意味を理解している。</li> <li>・代表値などの必要性と意味を理解している。</li> <li>・課題を解決するために、ヒストグラムや代表値、相対度数などをどのように用いればよいかを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察</li> <li>・ノート</li> <li>・ワーク</li> <li>・振り返りシート</li> <li>・レポート課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導</li> <li>・机間指導</li> <li>・指導助言</li> <li>・指導方法の工夫改善（個別観察と支援）</li> <li>・教材の開発</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。</li> <li>・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料の傾向を読み取り説明することができる。</li> <li>・問題を解決するために、代表値などを用いて、資料の傾向をとらえ説明することができる。</li> <li>・有効数字を使って表すと、どこまでが意味ある数字かが分かるという良さを考えることができる。</li> <li>・資料を整理して傾向をとらえ、ヒストグラムや代表値などを用いて、説明することができる。</li> </ul>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒストグラムや相対度数のよさに気づき粘り強く考えようとしている。</li> <li>・ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>・ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしていたりしている。</li> <li>・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率のよさに気づき粘り強く考えようとしている。</li> <li>・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決するため、度数分布表やヒストグラム、相対度数などを用いて、資料を整理しようとしている。</li> <li>・問題を解決するため、代表値などを求めようとしている。</li> <li>・課題を解決するために、ヒストグラムや代表値を用いて、整理しようとしている。</li> </ul>		

